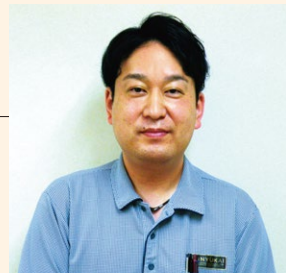


支援相談員の リレーコラム Vol. 11

介護相談課 課長 鈴木 健太郎

介護老人保健施設みやびの森



地域と家庭を繋ぐ「架け橋」として、ご縁を大切に

皆様、はじめまして。この度、ボヌール士別の鈴木さんからバトンを受け取りました、介護老人保健施設みやびの森の鈴木です。同じ苗字ということで、勝手ながら不思議なご縁を感じております。

当施設は、旭川の豊かな自然に囲まれ、「ふれあいを大切に、安心と笑顔のある生活空間」をモットーに掲げる老健です。令和2年より在宅強化型として運営しており、日々活気にあふれています。現在、介護を取り巻く環境は激変していますが、当施設でも「超強化型」への転換や地域連携の深化など、さらなる質の向上に向けて多くの課題に挑戦しています。

支援相談員として私が特に力を入れているのは、「対話」の質を高めることです。単なる手続きの窓口ではなく、利用者様が「大切にしたい生き方」を描くための伴走者でありたいと考えています。

福祉の現場に、唯一無二の正解はありません。だからこそ変化を恐れず、常に「その人にとっての最善」を追求し続ける姿勢を大切にしたいです。2030年に向けた法人ビジョン「地域・職員から選ばれるONE 仁友会」を見据え、これからも地域に根ざし、心から頼っていただける施設づくりに邁進してまいります。

NEXT

次の執筆者は介護老人保健施設ケアステーションアンダンテの伊藤竜至さんです。元野球部の先輩からのご紹介というご縁で、バトンを繋げていただくことになりました。直接の面識はまだございませんが、こうした予期せぬ繋がりが生まれるのもリレーコラムの醍醐味だと感じております。竜至さん、今回の執筆をよろしく願っています！

INFORMATION

第33回 北海道老人保健施設大会

日時 2026年 11月14日(土) 会場 ホテルエミシア札幌 札幌市厚別区厚別中央2条5丁目5-25

大会テーマ

地域を支える老健の未来

～令和9年度介護報酬改定を見据えた、人材育成と業務改善～

基調
講演

次期介護報酬改定について(仮)

講師 古元 重和氏 北海道大学大学院医学研究院
社会医学分野 医療政策評価学教室 教授

特別
講演

AIケアプランの導入と実践

講師 近藤 謙一氏 介護老人保健施設さくら 事務部長

職能座談会in老健大会 リハビリ部門、看護部門で開催

参加費 大会 3,200円(1名/税込) 懇親会 5,500円(1名/税込) 演題発表 48題

第33回 北海道老人保健施設大会特設サイトは8月1日オープン!

参加登録および演題登録は、8月1日以降、特設サイトよりお申し込みください。

大会事務局 (大会運営、参加・演題申し込み、抄録原稿を担当) 介護老人保健施設 グリーンコート三愛 (担当:菊地) TEL:0143-83-0111

老健ほっかいどう VOL.20
2026年7月

編集・発行 一般社団法人北海道老人保健施設協議会 会長 長谷川 賢
〒007-0804 札幌市東区東苗穂4条1丁目1-68 社会医療法人豊生会 介護老人保健施設ひまわり内
TEL:011-781-8800 FAX:011-781-8822 URL:https://doroken.jp E-mail: info-pop@doroken.jp
編集協力・制作 / 株式会社みんなのこぼし舎

老健 ほっかいどう

VOL.

20

2026年7月

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

おおぞら



手稲あんじゅ



CONTENTS

特集 未来の仲間と出会うために 学生に選ばれる施設づくりのヒント

- 02 事務局・事務連新メンバー紹介／令和8年度 スキルアップ研修会 開催報告／みんなで使おう! ご当地ROKENくん
- 06 ろうけん拝見! 08 支援相談員のリレーコラム／老健大会告知

事務局・事務連新メンバー紹介

社会医療法人刀圭会
介護老人保健施設
アメニティ帯広

事務部 兼
在宅支援部副部長

渋田 数馬



この度、北海道老健協事務局の一員となりました渋田と申します。自分の経験や実力は周りの諸先輩方には到底及びませんが、この貴重な経験を糧とし、各地の老健で頑張っている皆様へ、少しでも役立つ情報発信や活動に繋げていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

社会医療法人刀圭会
介護老人保健施設
アメニティ本別

施設長 兼 事務部長

西田 拓己



十勝の本別町にある老健に在籍しています。介護職を21年間経験し、事務へ異動して6年目を迎えました。この度、事務局に加わり益々学びのある日々を送っています。老健が抱える課題の解決に取り組む皆様のお力になれるよう、行動してまいります。宜しくお願いいたします。

医療法人 回生会
介護老人保健施設
回生苑

事務長

中田 美穂



この度、事務連に参加させていただくこととなりました。会員の皆様に、より良い情報提供や交流、学びの機会をご提供できるよう、微力ではございますが尽力してまいります。皆様とお話できることを楽しみにしております。研修等でお見かけの際は、ぜひお気軽にお声がけください。

令和8年度 スキルアップ研修会 開催報告

2026年7月6日・7日の2日間、ホテル函館ロイヤルサイドにて令和8年度スキルアップ研修会を開催しました。テーマは「動き出しは本人から～当たり前のことを当たり前に実践するための考え方から実技まで～」講師に株式会社Start movement代表取締役の大堀具視氏をお迎えし、31施設・86名にご参加いただきました。

1日目の講義では、「何う」を当たり前のコミュニケーションとし、何をするのか予告してから触れることで、利用者が動作を「自分事」としてとらえ、動き出しが引き出されることが示されました。実技では「立ってください」と「立っていただいて良いですか?」の印象の違いを体感し、起き上がりから

靴履きまでの介助を「伺い」ながら実践しました。

2日目の講義では、利用者が抵抗する背景には予測できない触れ方や速すぎる介助があると解説され、触れる前の予告と利用者のペースを尊重することが強調されました。実技では紙コップの水を「飲ませる・飲ませられる」体験で介助への不安を実感した後、起き上がりから車いす移乗までの各場面で本人の動き出しに合わせる介助を学びました。

参加者からは「本人の意思を尊重することで自然な動作が引き出された」との声が寄せられています。今回の学びを各施設の実践につなげていただければ幸いです。



講師の大堀具視氏



2日目の実技の様子



参加者集合写真

みんなで
使おう!

ご当地ROKENくん

老健施設の役割や魅力を広く発信するために誕生した全国老人保健施設協会のマスコットキャラクター「ROKENくん」。モチーフである犬は、古くから人に寄り添う身近な存在として親しまれてきました。介護老人保健施設も、高齢者の自立と在宅生活を支える“パートナー”でありたい。そうした思いから、親しみやすい犬のキャラクターが採用されています。

2025年には、各地域の特色を生かした「ご当地ROKENくん」が誕生しました。北海道版は、全国的に人気が高まる「シマエナガ」の姿をしています。施設のお便りや掲示物などの広報物に活用し、ご利用者やご家族、地域とのコミュニケーションツールとして、ぜひお役立てください。



「ご当地ROKENくん」のイラストデータは、北海道老人保健施設協議会事務局にて管理しています。使用をご希望の場合は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ 北海道老人保健施設協議会事務局 (介護老人保健施設ひまわり内) TEL 011-781-8800 (担当:村瀬)

特集

未来の仲間と出会うために 学生に選ばれる施設づくりのヒント

介護学生の現場実習が実施される季節となりました。

学生は実習を通じて、職員の指導や職場の雰囲気を感じ取り、「ここで働きたい」かどうかを見極めていきます。

では、学生に選ばれる施設になるためには、何が求められるのでしょうか。せいとく介護こども福祉専門学校の福江先生のお話をヒントに、採用という視点からこれからの施設づくりの方向性を考えます。

答えて
くれた方

学校法人西野学園 せいとく介護こども福祉専門学校

介護福祉科 専任教員 **福江 靖彦** さん (介護福祉士)



札幌市内の高齢者施設で24年間にわたり介護職として勤務。主任として採用面接や新人教育、実習生の受け入れなどの業務を担当してきた。豊富な現場経験を生かし、現在はせいとく介護こども福祉専門学校 介護福祉科で教鞭をとる。このほか、社会人を対象とした資格取得講座の講師も務めるなど、幅広く介護人材の育成に貢献している。

給与より"自分の時間" 今の学生が注視する労働条件とは?

——就職先を選ぶとき、学生はどんな条件を重視していますか?

真っ先に挙がる条件は、給与と待遇ではなく、**ワーク・ライフ・バランス**です。今の学生は、自分の時間を大事にする傾向があり、業務の枠組みが自分に合っているかどうかを重視します。「一晩通しの夜勤には抵抗がある」という声もよく聞きます。それは夜勤業務への不安というより、自分の生活スタイルを保ちたいという気持ちの表れだと思います。

——収入面よりも生活スタイルの維持を優先する、ということでしょうか?

その傾向が強いです。夜勤をする方が収入としてはプラスになりますが、学生はあくまで**「自分の生活スタイルに合っているか」「自分が思っている介護の仕事ができるか」**に重きを置いています。夜勤の体制は施設によってさまざまで、二交代制を取り入れているところも出てきています。そうしたところに注目しながら、職場を探しているという印象がありますね。

——ワーク・ライフ・バランス以外で学生が注視するポイントは何?

今の学生、特に留学生は車を持っていない人が多いので、送迎バスがあるかどうかなど、通いやすさもチェックしています。また、通勤にかかる時間もワーク・ライフ・バランスに影響すると考えています。通勤時間が長くなるほど、自分の時間が減ってしまうため、

そうしたところも含めて職場を検討する学生は少なくありません。

キャリアアップのための体制や環境が整備されているかも、就職先を選ぶときのポイントの一つになっています。いろいろな研修や大会に参加できることは、学生にとっても魅力的に映ります。私は、社会人を対象とした講義も行っていますが、受講者の中には業務扱いで参加している方もいれば、有給休暇を使って参加している方もいます。資格取得を目指したり、スキルを磨いたりするための環境が、法人あるいは施設として整っていれば、働く上でのモチベーションアップにつながるでしょう。



「安心できる環境」がカギ 実習生の心をつかむ受け入れ方



—就職先選びには、労働条件以外に
実習での経験も影響すると思います。
学生が「良かった」と感じる実習先には、
どんな共通点がありますか？

1つ目は、**職員の指導が丁寧で優しいこと**です。学生は緊張と不安を抱えて実習を行います。こまめに指示や声かけをしてくれる指導者の方がいることが安心につながり、施設に対して良い印象を持つようです。

2つ目は、**指導の統一性**です。「昨日はこう言われたけど、今日は違うことを言われた」という状況は、学生を混乱させてしまいます。どの職員さんに聞いても同じように答えてくれるということも、学生の安心につながります。



そして3つ目は、**学校で学んだことと現場でのギャップが少ないこと**です。まれに、実習を終えた学生から「学校では利用者本位のケアをするよう学んだけれど、現場では安全面などの理由から異なる対応が必要な場面もあり、戸惑った」という声を聞くことがあります。勉強したことと違うことが施設で行われていると、混乱したり疑問を抱いたりするので、もし学生からこれに類する質問があった場合は、丁寧にフォローをしていただくと彼らの不安も解消できると思います。

—**安心して実習ができることで好感を持つんですね。では施設として、実習生の受け入れに大切なことは何でしょうか。**

職場に良い雰囲気や醸成することは、老健に関わらず大切だと思います。職員間での挨拶がある、お互いを尊重しつつフラットに話せるなど、アットホームな環境の施設は、学生にも人気が高いです。

高齢者施設という視点で考えたときには、私は、介護職だけでなく施設全体で受け入れる姿勢が大切だと感じています。実は私自身も介護職として働いていました。その経験からいえることは、学生は「**みんなに受け入れられている**」と感じると、安心して実習に臨むことができるということです。介護現場は多職種の連携によって成り立っています。施設長や看護師、リハビリ職、栄養士など、さまざまな職種が学生に関わる機会をつくることで、学生にとっての学びにもなりますし、施設への親しみや安心感にもつながっていくと考えています。



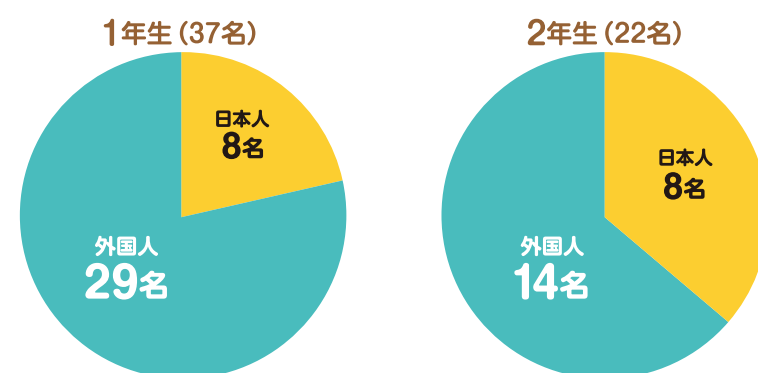
養成校で進む、留学生比率の急増 受け入れ体制の確認を



—介護福祉士を目指す学生のうち、
留学生の割合が増えていると聞きますが、
実感はありますか？

介護・福祉の養成校では今、学生の構成が大きく変わりつつあります。本校の介護福祉科では、1年生37名のうち29名が留学生と、約8割を占めています。2年生も22名中14名が留学生です。3～4年前は日本人と留学生が半々程度でしたが、ここ1～2年で留学生の方が多くなりました。

せいとく介護こども福祉専門学校 介護福祉科の
学年別・国籍別の学生数



留学生の割合は年々高まっており、今後の介護現場において、外国人人材との協働はより身近なものになっていくと考えられます。

特集 未来の仲間と出会うために 学生に選ばれる施設づくりのヒント

—日本人が少なくなっているのは
なぜでしょうか？

インターネットやSNSが普及して、ほかの職種の環境や待遇が簡単に調べられるようになりました。さまざまな情報を踏まえた上で進路を選ぶ学生が増えています。介護は他業種と比べると給与水準はまだ低い面もあり、それが影響していると思われます。ただ、**介護業界の待遇は改善傾向にありますので、そうした情報発信をしていくことが大切だと思います。**



—なるほど。その一方で、留学生が増えている理由は何でしょうか？

日本の介護の取り組みは、他の国にはない「最先端で進んだもの」と捉えられています。自国ではまだ発展していない分野であるため、日本で学び、その技術を自国に持ち帰りたいという意欲のある学生が多いくのです。

また、多くの留学生は、施設に学費を貸与してもらい、卒業後にその施設で5年間働くことで、返還義務を免除してもらう契約を結んでいます。卒業後の進路が確保されている仕組みも、留学生が日本の介護福祉士養成校を選ぶ大きな要因となっています。



—留学生をスタッフとして受け入れる
ときに、特に重要な対応を教えてください。

仕事面だけではなく、**生活面のサポートも行うことが重要です**。就職が決まっても、住む場所を探すのに苦労したり、日本人の身元保証人が見つからなくて困るケースもあります。連帯保証人や緊急連絡先に日本人が必要という条件は、留学生にとって大きなハードルです。学校にいる間は学内の相談窓口でサポートできますが、就職後は施設側が対応の主体となりますので、住居や保証人について、法人あるいは施設で確保できる体制を整えておくことが大切です。



—言葉の面での配慮やサポートも
必要になりますか？

はい、必要ですし、重要です。留学生は、説明した内容が理解できていなくても、「わかりました」と答える傾向にあります。**日本人の実習生以上に細かく声をかけたり、気にかけてりすることが、留学生の理解を促すきっかけとなるでしょう。**

また**出身国によって、日本語を学ぶ上での得手不得手があります**。例えばネパール出身の方の中には、話すことはできるけど読み書きは苦手という方もいます。漢字の文化がある中国出身の方では、読み書きはできるけど話すのは少し苦手という方もいます。学校で指導する際は、個々の弱い部分を把握したアプローチをするよう心がけています。



—ほか、留学生と働く上で留意したいことは何でしょうか？

職員が「**育てる意識**」を持つことです。今後はどこの施設でも、外国人と一緒に働く機会が増えていくと思います。実習生の受け入れは単なる教育協力ではなく、将来の人材確保につながる大切な機会と捉え、組織全体で留学生をフォローし、成長を促す環境づくりをしていくことも重要だと思います。



—最後に、実習生を受け入れている
老健へのメッセージをお願いします。

実習生は、未来の仲間の候補です。指導が大変だと感じることもあると思いますが、**学生が安心して実習できる環境をつくることが、施設で働く職員にとっても居心地の良い職場づくりにつながっていくと思います**。ぜひ、施設全体で迎え入れるという意識を持って対応していただけたらうれしいです。



Roken Review! ろうけん拝見!

変化を続け、利用者を選ばれる老健をめざす

介護老人保健施設 手稲あんじゅ

入所定員 90名(短期入所含む) 通所定員 37名

超強化型 単独型

札幌市手稲区稲穂5条2丁目6-1 TEL 011-685-8200



入所者さんの安心のために挑戦を続ける

手稲あんじゅでは、入所者さんが安心して過ごせるケア体制の維持と充実を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

その一つが、ICTの活用です。数年前からオンライン研修アプリを導入して研修の準備時間の削減を図っているほか、2026年1月からは介護や福祉に特化した記録作成ツールを一部の部署で導入。会議の議事録やケアプランの作成に活用しています。主任相談員の古山信博さんは「こうした取り組みを通じて生まれた時間を入所者さんとの関わりに充てていきたい」と話します。

人材の面では、2024年12月より特定技能

職員を採用しており、現在、インドネシア出身者6名が勤務しています。介護主任の五十嵐幹さんは「最初に入職した2名は4月から夜勤も担当し、大きな戦力になっています」と語ります。人員が充実し、より丁寧なケアを提供できる環境が整ったといいます。

さらに、医療連携の面でも体制を強化しています。2024年度の介護報酬改定で新設された協力医療機関連携加算を機に、4件の医療機関と連携。月1回の会議で新規入所者さんやハイリスクの入所者さんの情報を共有し、緊急時の入院調整がスムーズになったといいます。万が一の時にも迅速に対応できる

体制が整い、入所者さんがより安心して過ごせるようになりました。

ICTの活用、人材の確保、医療機関との連携——それぞれの取り組みが合わさり、ケアの質向上と安心の担保につながっています。



入所者さんと体操を行う特定技能職員

楽しい仕掛けでデイケアの利用を促進

「当施設の目下の課題は、デイケアの利用率低下です」と副主任相談員の橋本千恵さんは話します。近隣に競合施設が増え、これらに付属するデイサービスを使う方も増えているといいます。こうした状況でも「手稲あんじゅに行きたい」と思ってもらうためには何か仕掛けが必要と考え、同施設は昨年春からスタンプカードを導入し、半年・年間で皆勤賞を達成した方にはお米をプレゼントしています。橋本さんは「利用者さんの通所意欲の向上につながっています」と手応えを感じているそうです。このほか、野菜の詰め放題や絵手紙教室など、月ごとにイベントも実施し、利用者さんに楽しさを届けています。

橋本さんは「利用者さんにもご家族にも『手稲あんじゅに入れてよかった』と感じていただく

ことが私たちの使命」と話します。小さな工夫の積み重ねで、利用者さんの笑顔を増やしている手稲あんじゅ。今後の取り組みにもぜひ注目です。



野菜の詰め放題イベントの様子



絵手紙教室の様子



利用者さんにお渡ししている
デイケアスタンプカード

事務連
ならから
質問です

ICT活用で当初想定していたこと以外に副次的効果などはありましたか？

職場全体のICTに対する心理的ハードルが下がり、ほかの業務改善やDX推進への前向きな姿勢につながりました。また、オンライン研修アプリの導入によって、職員が自主的に学習する姿勢が見られるようになりました。

札幌市

札幌市の老健施設にお邪魔しました！

在宅復帰・在宅支援、レクリエーション、ケア全般、多職種協働など、各老健が重点的に力を入れている取り組みを紹介していきます。

部署や職種を越えて、施設全体でケアを実践

介護老人保健施設 おおぞら

入所定員 100名(短期入所含む) 通所定員 50名

超強化型 単独型

札幌市東区丘珠町167-10 TEL 011-786-0020



八木澤さん

村上さん

小松さん

清水目さん

役割分担と連携で実現する「みんなで介護」

札幌市東区にあるおおぞらの合言葉は「みんなで介護」。多職種が連携し、チームケアを行っています。コロナ禍で介護職不足が顕在化したことを機に、利用者さんに満足いただけるケアをいかに維持するかを考え、体制づくりを進めてきました。

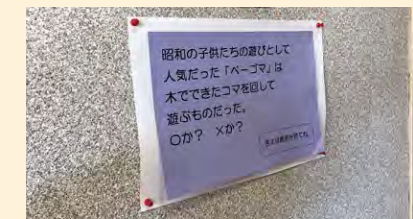
「みんなで介護」を実践するにあたり取り組んだのが業務の整理です。介護職・リハビリ職・看護職の専門職が行う業務と、周辺業務を切り分け、周辺業務は介護助手や事務職員が引き受けることで、専門職が専門的なケアに専念できる環境を整えています。例えば、食事の際には、事務職員が全体的見守り役を担うこともあるといいます。

事務部長の八木澤一明さんは「体制づくりを進める上で介護助手の存在が大きい」と話します。おおぞらでは現在、5名の介護助手が勤務し、

入浴後の利用者さんのドライヤーがけ、リネン交換や壁面の飾りつけなど、多岐にわたる業務を担い、専門職を支えています。



元幼稚園教諭の介護助手による壁面の飾りつけ



廊下を歩いてリハビリする利用者さんのために、事務職員が考案した廊下クイズ。数カ月に1回内容を変え、リハ職と利用者さんとの会話のきっかけや回想法の効果を狙っている

ともに働く仲間と、地域とのつながりを大切に

業務の整理と並行して取り組んできたのが介護職の人員確保です。おおぞらでは2023年10月より技能実習生や特定技能職員を採用し、現在ミャンマー出身者2名、インドネシア出身者6名が働いています。「業務に対してとても意欲的で、学ぶ姿勢がほかの職員を刺激しています。最初に入職した2名は後輩のプリセプターも担ってくれています」と八木澤さんは語ります。特定技能職員の住居や家具は法人が用意。ゴミの出し方や、地下鉄・バスの乗り方といった日常生活に必要な知識は事務職員が伝えるなど、施設全体で生活面を丁寧にサポートしています。

また、2025年よりスポーツワークサービスマも活用しています。事務部担当課長の笠谷こずえさんは

「職員が業務を教えることで、業務自体を見直す良い機会にもなっています。働いた方の大半が再び応募してくださるのもうれしいです」と話します。

こうした体制づくりと同時に、おおぞらがずっと大切にしてきたのが地域とのつながりです。2009年より近隣企業と協力し、施設前の道路の美化活動を継続してきました。また、毎年春には、利用者さんのリハビリに使う中庭を、札幌工科専門学校の実習場所として提供しています。「地域の人とのつながりを絶やさず、職員みんなで利用者さんのケアを提供していく施設でありたい」と語る八木澤さん。「みんなで介護」を掲げ、おおぞらはこれからも歩み続けます。



専門学校の学生たちが実習として中庭の花壇を手入れしてくれている



道路沿いの花壇の美化活動は昨年札幌市から表彰を受けた

事務連
ささきから
質問です

専門学校の実習場所として中庭を提供しているという点において、学生と利用者が交流する際、施設側が気を付けていることは？

花壇づくりでは、学生さんが土やプランターを準備し、利用者さんが花を植え、再び学生さんが整えるというリレー形式で進めており、作業はそれぞれ別日に行っています。間接的な交流を図中、利用者さんの生活環境を整えることの重要性を学んでもらい、地域全体で温かい絆を育んでいます。